

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800015		
法人名	医療法人 佐原病院		
事業所名	グループホームさわら B棟		
所在地	喜多方市塩川町大在家21		
自己評価作成日	2019/1/25	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成31年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課にしている体操・歩行練習では声を出し、元気よく意欲的に取り組まれている。ラジオ体操、施設オリジナルの演歌に合わせたズンドコ体操では歌詞を口ずさみながら行い認知症予防を意識している。歩行練習はその方の状態をよく見て無理のないよう行い、身体機能が低下しないよう努めている。利用者様の間で認知症進行度の差が大きいため、一人ひとりに合った声掛け、トイレ誘導、食事の提供をし利用者様が気持ちよく過ごせるよう努めている。職員はコミュニケーションを大切に、常に利用者様に気を配りながらケアを行い、些細な変化を組み取り、利用者様が不安にならないような環境作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識し、実践してもらえる様にスタッフルームなど目の届く所に掲示し、職員会議などで確認し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生のボランティア受け入れや文化祭に作品を出展している。紙芝居や傾聴ボランティアの訪問、またご近所の方々からの野菜の差し入れや観賞用の菊の花をホームの方に見て頂きたいと届けてくださるといった交流があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	別府地区の総会に出席し、ホームの様子や地域の方の要望をお伺いしている。認知症カフェ、交流会、ボランティアを通して地域の方々との関わりを持ち一緒に楽しみ、知って頂く機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	研修や運営状況の報告や行事の様子をプリントアウトをして皆様に見て頂いたり、避難訓練にも参加して頂き、ご指摘、ご意見を貰い改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やケア会議、グループ連絡協議会に出席したり、市の方に足を運び、情報交換に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが自己チェック表を活用し、その都度職員会議で検討、確認している。研修等にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が月一回の自己チェック表に記入し自己評価を行っている。研修にも参加し、又委員会を中心に職員会議で話し合いを持ち、虐待についての理解を深め発生防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて理解を深め、必要に応じて市役所へ相談したり職員間で話し合う機会を持つよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項について説明し、不明な点があれば捕捉し不安や疑問がないよう安心して入所して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や面会時、電話があった際には、ご家族の要望や意向を伺える様な体制をとっている。又、職員会議や法人の会議にて意見を伝え対応できる様、取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回職員会議を行い、話し合いの場を持ち意見を出し合い、運営に反映させている。統括・管理者、又は管理者と一対一で面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は職員の研修、資格取得に理解している。又、キャリアパス導入をし、年一回のベースアップ、処遇改善交付金の支給を行い、職員が仕事にやりがいを持って働けるような環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が外部の研修に参加できるよう努め、職員会議で研修内容を周知し、ホーム全体のスキルアップを目指せるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、運営推進会議、他事業所の行事にも参加し交流の機会を設けている。又、交換研修などを取り組み、職員間でサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様とコミュニケーションを図りながら、何が不安か、何を望んでいるかをお聴きし、出来る事から少しずつ実行し、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面会などホームに来所された時にはコミュニケーションを図り、ホームでの生活の様子をお伝えし安心して頂いている。来所が難しい方には、電話連絡などで対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族の話を傾聴し、今何が必要かを把握し、担当のケアマネージャーとの連携を取り、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を見つけ、お手伝いをして頂き、食事の準備・後片付け、掃除、洗濯畳みなど役割を持ち、職員との時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の近影や面会時には近況報告をし、体調の変化時には、すぐに家族様と連絡がとれる様、普段から情報の共有を図るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会を大切にし、状態が安定している方には外食や外出できる様お願いしている。他施設に移られた方との面会にも積極的に取り組み、外泊時には安心して過ごせるよう、施設での様子をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の認知の進行度や性格を理解し、談話室での席はお互いの会話が弾み、気持ちよく過ごして頂けるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族の相談は丁寧に受け、同グループ施設や病院へ入院されている方は機会があれば面会を行い、関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で利用者様とのコミュニケーションを大切にし、家族に伝えてほしい事、欲しい物、困っていることなどを聞き、出来る限りの支援に努めている。又、一人一人の状態を把握し、その方に合った生活スタイルを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に他事業者から情報を頂き生活状況の把握に努めている。紹介先のケアマネージャーやご家族からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ただ見守りをするのではなくコミュニケーションを大切にし、会話の中から利用者様の様子と変化に気付けるよう心掛けている。生活記録と申し送りにて、その方の現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話にて現状を報告し、必要時にはご家族と担当雄者会議を開催している。ケア会議で一人一人に合ったケアの見直しをし、モニタリング作成に結びつけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には不穏時の対応、利用者様との会話、日々のケア等細かく記録し申し送りを基に情報の共有に努めている。ケアプランは必要なケアが加わった際見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に合ったサービスを提供できるよう月一回のケアカンファレンスにて一人一人のケアを見直している。個々の食べや衣服の好みを把握し、その方の希望に添えるようなサービスの提供を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では区長さん、地域ボランティアの方々との交流時や傾聴ボランティアの訪問時等に地域資源について教えて頂き、必要であれば市の福祉サービスを利用できるよう専門員に相談をしながら業務に当たっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる佐原病院とは訪問看護、訪問診療、受診時にドクターやナースに相談できるよう連携を取っており、他科受診希望のご家族には受診前に施設での体調や様子をよく説明し安心して受診が出来るようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週一回の訪問時に申し送りノートを活用し利用者様の健康チェックを行い体調管理に尽くしている。体調の変化にも相談し、必要時は受診同行対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、毎日面会し、本人や御家族様の不安を取りのぞけるよう対応し、病院との連絡を密にし状態を把握している。治療後のスムーズな対応や支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、利用者様、ご家族様の意向を聞きながら、その都度説明し、関係機関と連携し、出来る限り対応出来る様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急受診マニュアルと緊急時情報提供書を作成し、急変時にすぐ対応できるようにしている。また全職員が応急手当普及員の資格を取得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を行っている。災害時に備え近所の方へ避難誘導の協力要請し、火災報知器内に連絡登録させて頂き、避難への協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員も各自、毎月ごとに自分自身の振り返りを確認できるよう自己チェック表を付け、利用者様への対応を確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物などは複数ある中からその時の気分で選んで頂いたり、入浴時や着替えの際は、なるべく利用者様に選んで頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合った過ごし方が出来るように支援している。職員同士でも利用者様の情報を共有出来るよう、各棟の申し送りノートを活用し、詳細把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のカットは、2・3ヶ月に一度来訪し、本人やご家族様から髪型の希望を聞きカットしている。また、昔から行かれている馴染みの美容室にご家族様に対応しおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事前に嚥下体操を行い職員や他者様との会話を楽しみながら食事を頂いている。又、盛り付けやホームで採れた野菜の収穫も一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記入し、一人一人の把握に努めている。お粥やキザミ・ミキサー食など、その方に合ったものを栄養補助食品で対応し、体調管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事前の緑茶うがい、夕食後は口腔内洗浄と義歯の洗浄を行っている。又、義歯をお預かりして洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続できるよう、一人一人の排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレへの声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳、ピルクルを積極的に取り入れ摂取して頂いている。又、毎日の体操・歩行練習を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声掛けをし、時間帯など本人様の意思を確認している。入浴中も又湯加減などの確認をしている。入浴の拒否がある場合は無理せず、時間をずらす、職員が交代し声掛けする等取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活リズムや、その日の状況によって居室へ誘導し休息や入眠の声掛けを行っている。日中はソファを使って頂き、休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用と副作用が記載された処方箋をファイリングし常に薬の確認を行えるようにしている。降圧剤や抗精神痛薬など追加処方になった場合は服用開始から一定期間血圧測定をし変化がないか注意している。服用薬は夜勤者が翌日分の薬をファイリングし間違えないよう徹底している。		
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の能力に応じて掃除や茶碗拭き、洗濯物畳み等のお手伝いをして頂いている。又、ホームの畑で作物を植えたり、花壇に苗を植えお世話を頂き育てる楽しみを感じてもらえるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけてドライブに出掛けたり、花見や紅葉狩りなど外出支援を行っている。又、外出や外泊が出来る様、ご家族と連携を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をされている利用者様は少なく、使う機会も少なくなっているが、外出した際は買い物を楽しませ適切な支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をかけたたり、毎月の近影のコメントで近況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房は利用者様に声がけし、こまめに調整し過ごして頂いている。季節に合った、習字、貼り絵、塗り絵などをして頂き、飾ることによって季節感を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室では席を決めているが、ソファや空いている席には自由に座って頂き思い思いに過ごせるようにしている。又、雑誌やパズルなどを置き、いつでも自由に趣味にふけることが出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室で使い慣れたものをご家族に持参して頂き使用している。居室にはご家族やペットの写真を飾り安心して生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりが設置されており、安全に移動できるようになっている。居室のドア、食堂のテーブルには利用者様の名前を貼り、分かりやすくしている。利用者様の出来ることをお手伝いして頂いている。		